

平成 29 年 5 月 24 日

北海道新聞

「太陽の瞳」
しずない農協野菜集出荷センターで選別されるミニトマト



赤くつややか 太陽の瞳

新ひだか ミニトマト出荷始まる

【新ひだか】町特産のミニトマト「太陽の瞳」の出荷が始まった。町静内木場町のしずない農協野菜集出荷センターには、赤いミニトマトが持ち込まれ、道内外に送られている。

太陽の瞳は、糖度が高く人気の品種「キャロル10」

のブランド名。同農協によると、今年は45戸が計28畝で作付けた。

出荷初日の21日は、同センターに直径2〜4センチ程度のミニトマトが約3ト運び込まれた。パートの主婦らは、傷が付いたり実が割れていたりするものを取り除

き、大ききごとに4種類に分け箱詰めした。同農協生産課の遠藤正樹課長補佐は「今年は糖度と酸味のバランスも良く、申し分ない出来になっている」と喜んだ。

太陽の瞳は、札幌や苫小牧など道内四つの市場をはじめ、東京や名古屋など計15の市場に出荷する。今年は2月の大雪でビニールハウスが壊れる被害があり、営農が一部遅れた農家もあった。そのため、昨年より約200ト少ない年間約1190トの出荷を見込む。

(川崎博之)